

——フィールドワークで「住民参加のまちづくり」をまなぶ——

乾 亨

これまでずっと住民参加の「すまいづくり」や「まちづくり」を実践的に支援してきました。ゼミでも、学生達と一緒に神戸の真野地区や京都のいくつかの地域にどっぷりと関わり、まちづくりのお手伝いをしています。研究者である前に実践者でありたいと考えています。研究者としては、現場での知見をもとに「参加」の成立要件や「コミュニティガバナンス（地域のことは地域で決める）」の可能性を明らかにしていく「参加型研究者」を目指しています。質問があれば遠慮なくメールしてください。

ゼミブログ「ばらさん乾ゼミ～まちづくりてつだい隊奮闘記」

: <http://inuisemi.cocolog-nifty.com/>

1. 専門演習の目標

一人ひとりが機嫌よく暮らしていけるための「まちづくり」はどうしたらいいのだろうか…「都市型コミュニティ」「コミュニティガバナンス」等々、概念はたくさんありますが、整理された理論だけを学んでもこの問いには答えられません。現に地域で行なわれている取組みを知り、現実を踏まえて考えることで、「住民参加」や「まちづくり」の意味や力を実感し可能性を確信する（あるいは限界を知る）ことができるのです。というわけで乾ゼミは、地域でのフィールドワークを通して「参加のまちづくり」の意義と可能性を実感の中で学ぶことを目指します。とはいえ、学生の地域観察なんか住民にはただの迷惑です。それに我々だって（少なくとも私は）観察するだけより、住民と応答し地域の役に立つ方が充実感があります。乾ゼミは、地域に飛び込み、住民や行政の人達とともに活動し、まちづくりを手伝いながら学ぶ「まちづくり応援隊」を目指しています（NPO 的ゼミ・ゼミ版インターンシップ）。

2. 専門演習で扱う課題と内容

私たちが機嫌よく暮らしていくためには、道路や施設づくり等によるハード面の整備（都市計画）とあわせて、子育て環境の充実や高齢者福祉、地域文化の継承、あるいは環境問題や地域の安全・安心への取り組みなど、暮らしのソフト面（社会計画）の充足や、その担い手である地域コミュニティの充実も大切です。このようにハードとソフトを含む複合的課題に一体的に取り組むことで「暮らしやすさ」を創出する活動を「まちづくり」とよびます。

本ゼミの第一の目的は、現場で「まちづくり」の考え方や方法を学ぶことです。

これまでの「都市計画」「社会計画」は行政や専門家の主導で進められてきましたが、「まちづくり」は当事者である住民たちの主体的参加や協働なしには行いえません。でも、住民は一枚岩ではありません。多様な価値観を持ち、ワガママで勝手な存在でもあります。どうすれば、みんなで話し合い、みんなで決めることができるのか…この答えは、論理だけでは導けません。現場に関わり、住民の人たちと活動を共にする中から、可能性を発見し、実践的な知恵を身につけることが本ゼミの課題です。

3. 授業の進め方・内容

4～5人ずつ班を組んで、まちづくりに取り組んでいる地域（フィールド）に入ります。地域はゼミ開始時に決定しますが、10年は京都の「春日学区（高齢者を支える福祉のまちづくり）」「梅津学区（地域文化の再発見と住民交流）」「本能学区（染め産業の復興と「染め」による地域交流）」、神戸の「真野地区（40年にわたる住民主体のまちづくり）」です。

活動は班単位ですが、各地域でのイベントにはゼミ生全体で参画し、他の地域についても学びつつ、まちづくりのノウハウを身につけます。全体ゼミは各班の活動報告を通じてまちづくりについての知見を拡げる場であり、かつゼミ生の交流の場です。

3 回生時の成果物として、班ごとに研究レポートを作成。年度終りに「乾ゼミ丸ごとシンポジウム」を開催し、地域の方や一般市民に成果を発表します。4 回生時は卒論指導。3 回生時の班研究を継承してもいいし、個人でテーマを定めて取り組んでも可としています。

4. 必要とする知識

知識は無いより有った方がいいけれど…社会生活を営むことのできる知恵と、自分で考えることのできる頭と、いろんなことに気づく感性と、人との関わりの中で新しいことに取り組んでいく意欲があれば、まずは十分です（あとは鍛えてあげます…笑）。

5. 関連する分野・科目・知識

地域やコミュニティの課題は複合的ですから、それに対する活動も多様です。政治や社会問題や地域経済や環境も、子育てや高齢者福祉も、地域スポーツや文化や情報の受発信も、関わると言えばみんな関わります。…よくいえば学際的?!

でもグローバルではありません。徹底的にローカルです。…ローカルな現実から社会や世界を変えていくグローバルな立場です。

6. テキスト・参考書・機材（受講生が標準的に持つもの）

課題に応じて紹介します。なお前述の「理論だけ学んでも」というのは単なる言葉のあやです。理論学習を軽視してはいけません。

7. 独自に付加する選考方法

特になし。

8. 受講生に望むこと

人と話すのが好き、フットワークが軽い、好奇心が旺盛、な人向きです。でも、真面目ばかりが能じゃない。「一寸先は闇」の現実の複雑さが気にならない楽観主義、住民と一緒に酒を飲んで遊べる能天気さも貴重です。地域に入ること、住民の人達から学ぶことを楽しんで下さい。但し、地域に入るため、定められた演習の時間以外の時間がある程度ゼミ活動のために割く覚悟は必要です。